

ライフサポート：はた

NO 5 : 2013. 8. 26

四万十市中村大橋通7丁目1-24

連合高知西地協内 TEL:34-9191

発行責任者：事務局 石井 孝

反貧困フェスタ 2013 に参加して

四万十市議 宮本 博行

8月10日、松山市において「反貧困フェスタ 2013 in えひめ」が開かれ、高知県から6名が参加しました。そのうち幡多からは幾久利典さん、曾根司公さんと私の3名が参加しました。「反貧困フェスタ 2013 in えひめ」は、愛媛大学の学生さんが中心で運営されていて、とても新鮮な雰囲気でした。午後0時半から開会し、「反貧困ネットワーク」代表の宇都宮健児（全日弁連会長）さんが開会挨拶をし、「所得が200万円以下の貧困者が2,000万人に達した。失業者は270万人となり、貧困は拡大している。一人ひとりには微力ではあるが、無力ではない。」と運動の拡大を訴えました。

続いて全体集會が行われ、座談会では「社会の課題と私たち自身の課題」と題して、反貧困ネットワーク事務局長の湯浅誠さん、テレビでお馴染みの精神科医の香山リカさん、僧侶として自殺撲滅運動をしている真宗大谷派僧侶の中下大樹さん、NPO法人自殺対策支援センターライフリング代表の清水康之さんの4人の講師がパネラーとなってそれぞれの反貧困の取り組みを通じて、様々な問題が提起されました。



続いての分科会は「青年の雇用問題」「漂流少女の今」「無縁社会・取材現場より」「今だからこそ、生活保護を考えよう」「ソーシャルキャピタルを育む私の地域づくりへの挑戦」「愛媛におけるゲイ男性のHIV（エイズ）の課題」「シングルマザーの暮らし方『政策提言』」の7分科会と特別分科会「放射能汚染を考える」に分かれ、分科会によっては会場に入れにくいくらい盛況でした。私は「青年の雇用問題」に参加しましたが、大学生も多く参加していたので、この会場も廊下にはみ出していました。「愛媛で若者雇用をめぐる問題」「若者就職支援活動の現場で見える諸課題」「安心して働き続けるために必要なことは何か」と題して、具体例や具体的な数字を挙げて、愛媛の今日の状況が詳しく話され、厳しい現実を実感しました。高知県は、これ以上に厳しいのではないかと思います。貧困問題は、国・県・市町村がしなければならないこと、企業・地域がしなければならないこと等、日本社会が多くの問題点を抱えていることを改めて実感いたしました。なお、話を聞きたい方は宮本まで連絡いただければ幸いです。

~~~~~うごき~~~~~

☆7月30日全労済高知県本部の総代会有り、新たに清水市職労委員長の山本悟氏と幡多地区共済会の松岡和男氏が2年間の理事に選任されました。

☆8月8日 高知県労働者福祉協議会の理事に当センター事務局長の石井孝氏が選任されました。

☆「楽しまんとはた博」でひまわりの種をまくボランティアを募集することになっていますので（9月・日時は未定）構わない方は宮本市議（090-5147-2662）までご連絡して下さい。